

古典の読み方とは

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。そろそろ春休みに入ります。

このような長い休みの期間に、たまには古典の勉強を試みたらよいと思います。そこで、古典の勉強はどのようにしたらよいかをお話させていただきます。

古典というのは、江戸時代までの文学や書物をいうことが多いと思います。古典は、文化のDNAを我々に伝えるものであると思います。昔の人は、どのように感じ、どのような生き方をしたのかということを知る上でもよいと思います。

また、古典の勉強の仕方としては、学校から配布されている教科書などにある古典の文章を大きな声で読むとよいでしょう。スムーズに読むためには、歴史的仮名遣いを多少覚えてからのほうがよいでしょう。古典には、読むと非常に気持ちがよくなるリズムがあります。意味が分からない場合は辞書を引きましょう。例えば、「世の中」という言葉一つにしても、世間、社会、人情、世間的名声などたくさんの意味が出てきますので、この場合はどの意味を使うのがふさわしいかと想像力を働かせて読んでみるのもよいと思います。また、無理に訳そうとはせず、声に出してリズムカルに読むというだけでも楽しいと思います。そして、大人の方は興味をもった古典文学、例えば、瀬戸内寂聴さんの源氏物語などがとてもおもしろいと思います。そういったものを現代文で読んで、気に入ったところだけ古文をひもとくのもいいかなと思います。